挨拶——原爆の写真によせて

石垣 りん

挨拶（あいさつ）——原爆（げんばく）の写真によせて　石垣（いしがき） りん

あ、
この焼けただれた顔は
一九四五年八月六日
その時広島にいた人
二五万の焼けただれのひとつ

すでに此（こ）の世にないもの

とはいえ

友よ
向き合った互（たがい）の顔を
も一度見直そう
戦火の跡（あと）もとどめぬ
すこやかな今日の顔
①すがすがしい朝の顔を
その顔の中に明日の表情をさがすとき
私（わたし）は②りつぜんとするのだ

地球が原爆を数百個所持して
生と死のきわどい淵（ふち）を歩くとき
③なぜそんなにも安らかに
あなたは美しいのか

しずかに耳を澄（す）ませ
何かが近づいてきはしないか
見きわめなければならないものは目の前に
④えり分けなければならないものは
手の中にある
午前八時一五分は
毎朝やってくる

一九四五年八月六日の朝
一瞬（いっしゅん）にして死んだ二五万人の人すべて
いま在る
あなたの如（ごと）く　私の如く
やすらかに　美しく　油断していた。

確認テスト 詩を読んで、問いに答えなさい。

(1) ——線①「すがすがしい朝の顔を」とあるが、作者は「すがすがしい朝の顔を」どうせよと呼びかけているのか。解答欄に当てはまるように詩の中から七字で書きぬきなさい。

すがすがしい朝の顔を

(2) ——線②「りつぜん」の意味を選びなさい。

ア とりとめがない様子。
イ 物事が急に起こる様子。
ウ 過去のことに感じ入る様子。
エ 恐ろしさにふるえおののく様子。

(3) ——線③「なぜそんなにも……美しいのか」とあるが、これはなぜだと考えられるか。詩の内容をふまえて適当なものを選びなさい。

ア 世界の状況に気を配り、戦争が近づいてきはしないかと注意を払っているから。
イ 原爆の恐ろしさや、世界が死と隣り合わせの状況にあることを認識していないから。
ウ 世界の平和のために必要なことを見きわめ、自ら行動に移しているから。

(4) ——線④「えり分けなければならないものは手の中に」と対句になっている部分を探し、最初と最後の三字を書きぬきなさい。

〜